

# 公共施設等を次世代へ 宗像市の挑戦

～Challenge to the future of Munakata～

■宗像ユリックスは、開館から27年目を迎えますが、来年も使えるでしょうか？

**たぶん大丈夫です。**

■5年後、10年後はどうでしょうか？

**恐らく大丈夫ではないでしょうか・・・**

■では、20年後、30年後は？ また、建替えはできますか？

**わかりませんが・・・大丈夫ではないでしょうか・・・**

■次世代にきちんと引き継いでいけるでしょうか？・・・



市民の皆さんも、私たち市職員も、公共施設等はあるに当たり前、今までも何とか生きてきたのだから、「これからは何とかなる。」と「ばくぜん」と思っています。

今、「これから」に対して準備しておく必要があります。  
宗像市だけが特殊なわけではありません。



世界で例を見ない経済成長を成し遂げ、  
世界に例を見ないスピードで高齢化が進行する  
この国で、**深刻な問題**が起ころうとしています。

公共施設や公共インフラの多くは、都市化の進展や経済成長とともに集中的に整備されてきましたが、近い将来、これらの「公共施設等」を一斉に更新する時期がやってきます。

そして、これに合せるように高齢化と人口減少が進んで財政状況が悪化し、現状のままでは、必要性の高い公共施設等まで良好な状態で保てなくなる恐れがあります。

これが、公共施設や公共インフラの更新問題です。

# この事故を覚えていますか？



**施設の老朽化  
が原因です!!**

資料：時事通信社

公共施設

駅

学校

庁舎

公共インフラ

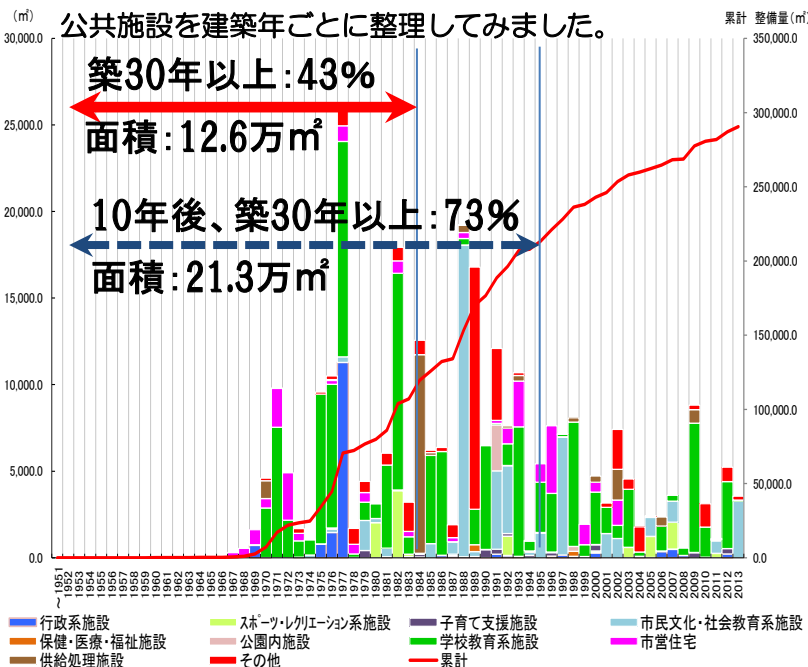
公園

橋

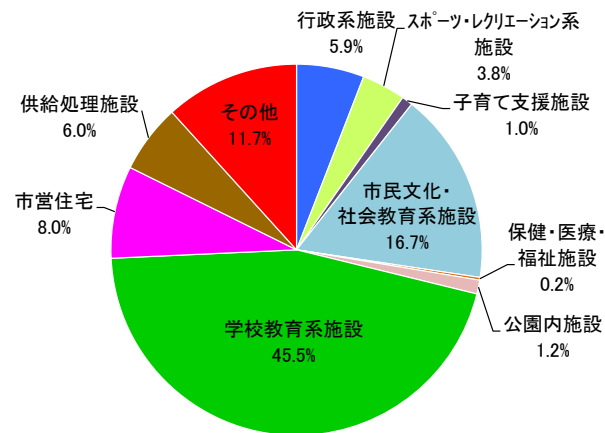
道路

年月日	事故の内容	備考
2011.3.11	東京九段会館天井崩落	築77年・震度5強・死者2名
2011.3.11	茨城県鹿行大橋落橋	橋齢43年・震度6・死者1名
2012.12.3	中央道笹子トンネル天井崩落	築35年・ <b>地震の影響ではない</b> ・死者9名

## 宗像市の現状はどうでしょう？



公共施設を分類分けしてみました。



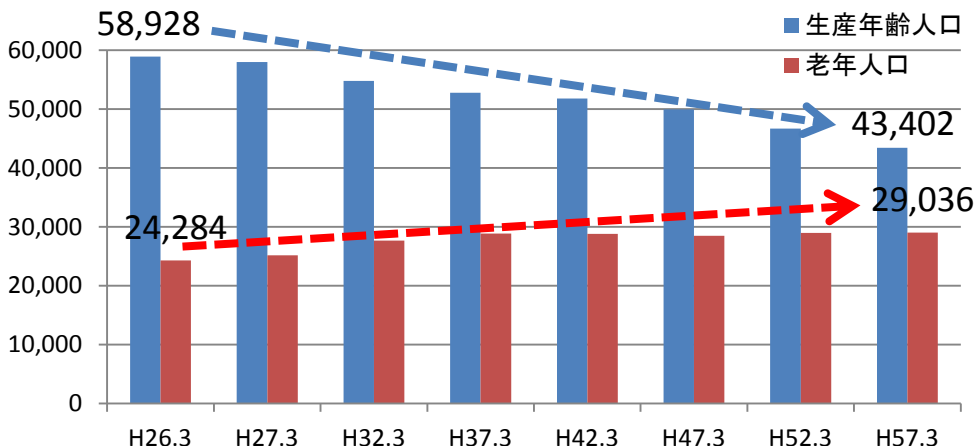
資料：宗像市公共施設白書

- 現在、29.1万㎡、市民1人当たり約3.0㎡の公共施設を保有しています。
- **築30年以上の公共施設が全体の43%を占めています。**

宗像市でも施設の老朽化問題ははじまっています。

# 老朽化への対応は大丈夫？（人口問題から）

30年後の平成57年3月までの人口推計をしてみました。



現在は、高齢者1人を2.4人で支えているのに対して、30年後の平成57年3月は、高齢者1人を1.5人で支えることとなります。

※生産年齢人口とは？  
15歳以上65歳未満の年齢に該当する人口のことをいいます。

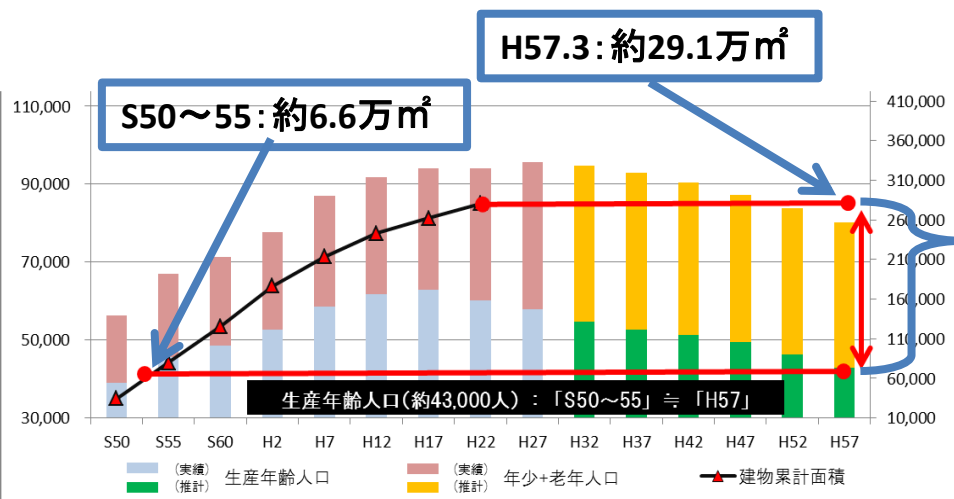
資料：宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会

- 生産年齢人口の減少は、税収にマイナスの影響を与えます。
- 一方で、少子高齢化がさらに進行すると、社会保障費の負担がさらに増加するなど、財政に大きな影響を与えます。

施設の更新に必要なお金の確保ができない状況がおとずれます。

## さらに！こんなギャップもあります。

生産年齢人口と保有面積との関係を考えてみました。



仮に推計どおり人口が減少し、今の面積を保有し続けると……

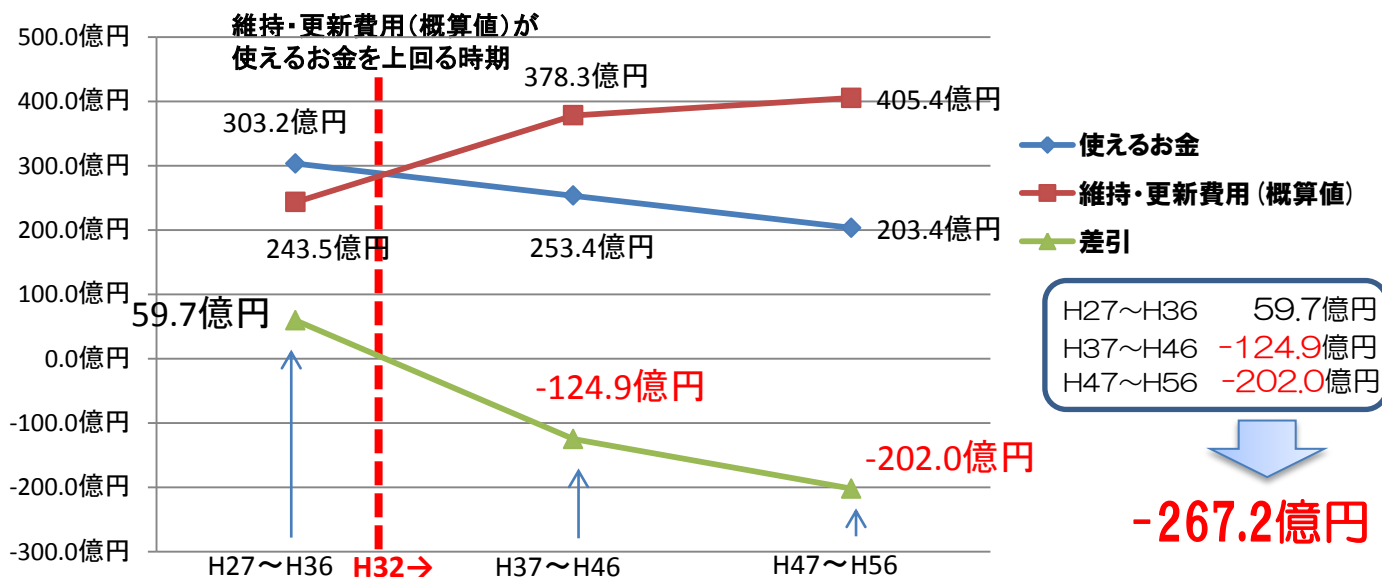
表のとおり30年後の生産年齢人口は、約43,000人です。この人口は、昭和50～55年当時の宗像市と同じです。当時と現在の公共施設の面積を比較すると、約4.4倍保有しています。

資料：宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会

- 人口減少によって、市の税収を支える年代を比較すると、生産年齢人口は昭和50～55年と同じです。

だから今、公共施設等の問題に取り組む必要があります。

# このまま公共施設等を維持し続けるのにいくら必要でしょうか？



資料: 宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会

- このままいくと、平成32年度頃から公共施設等の維持・更新に使えるお金を維持・更新費用(概算値)が上回ります。

その結果、市の長期財政見通しでは、平成56年度までにおよそ、267億円不足する見通しとなっています。

そこで、宗像市では、  
「将来世代に過度な負担を残さず、適正に資産を引き継いでいく。」ため、  
早期に公共施設等の問題に取り組みます。

